

## 業績予想の修正について

1. 最近の業績の動向等を踏まえ、2007年10月4日付「中間決算短信」において公表した2008年2月期（2007年2月21日～2008年2月20日）の業績予想を下記の通り修正いたします。

<当期連結業績予想>（2007年2月21日～2008年2月20日）（単位：百万円）

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	5,250,000超	200,000～210,000	205,000～215,000	70,000～76,000
今回修正予想 (B)	5,135,000超	167,000～172,000	177,000～182,000	60,000～63,000
増減額 (B-A)	115,000	33,000～38,000	28,000～33,000	10,000～13,000
増減率	2.2%	16.5%～18.1%	13.7%～15.3%	14.3%～17.1%
前期比増減額	310,225	22,728～17,728	11,303～6,303	2,344～5,344
前期比増減率	6.4%超	12.0%～9.3%	6.0%～3.3%	4.1%～9.3%
前期実績(2007年2月期)	4,824,775	189,728	188,303	57,656

2. 業績予想修正の主な原因は、以下の2点です。

(1)米国タルボットの不振

米国タルボットが、9月下旬からのミッド・シーズン・セール不振等から、カジュアル衣料の販売が伸びず、9ヶ月累計の既存店売上高伸び率が対前年同四半期比94.6%となり、営業利益が79億円低下しました。残る第4四半期も慎重な見方をしております。尚、同社は、2008年9月までにキッズ、メンズ部門から撤退し、コアビジネスのレディス部門に集中していくことを2008年1月4日に決定いたしました。

(2)イオン(株)単体の利益改善が小幅に止まったこと

当期は、マイカルのIT投資、イオン銀行の設立準備、電子マネー「WAON」のスタートなど、今後の新たな成長を踏まえた戦略的投資を行っております。また、会計基準の変更や新貸金業法の施行による営業利益への影響も想定しており、イオン(株)単体の大幅な増益をはじめ、グループ全体で利益の減少要因をカバーする見通しでした。しかしながら、イオン(株)単体の利益改善が小幅に止まる見通しとなりました。

\* 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の実績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上